

2022（令和4）年度  
相模原看護専門学校  
公募推薦・社会人入学試験

**国語**

（試験時間 50 分 配点 100 点）

**注意事項**

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答する途中で、ページの落丁・乱丁や印刷不鮮明の箇所および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
3. HB の黒鉛筆を使用し、訂正する場合は消しゴムで完全に消してからマークしてください。
4. 氏名を記入し、番号欄を正しくマークしてください。
5. 試験終了の合図と同時に解答を止め、鉛筆を置いてください。
6. 解答用紙は試験官の指示に従って提出してください。

問題一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ある大きな町のはずれに古い時代の小さな円形劇場の廃墟があった。近所の子供たちは遊びにきては真ん中の広場でボール投げをし、大人たちはヤギに草を食べさせにつれてきた。夜には恋人たちがあいびきの場所にしたりしていた。この円形劇場の廃墟に身形みなりのみすぼらしい女の子がどこからともなくやってきて棲みついた。舞台の下に残っている崩れかけた小部屋の一つにある。モモというこの女の子はたちまち近所の人たちと仲よくなった。その人たちの協力で部屋も小ぎれいに修理された。

モモがきてからというもの人々の生活は明るい活気のあるものになった。モモには不思議な力があつたからである。といつても別にいわゆる超能力をもっていたわけではない。ただ、モモは相手の話をきくことがうまかった。モモに話をきいてもらっていると、まともない考えが浮かんでくる。モモがその大きな黒い目で、じつと見つめていると、相手は、自分のどこにそんなものがひそんでいたかと驚くような考えが、すつと浮かび上がってくるのだった。モモに話をきいてもらっていると、思い迷っている人は自分の意思がはつきりし、引つ込み思案の人は勇氣が出てくる。喧嘩して仲たがいし憎しみ合っている者同士もモモに話をきいてもらっていると心がなごみ、やがて親愛の情が **A** いてくるのである。

モモにはたくさんの友達がいたが、とくに親しいのは道路掃除夫のベツポおじさんと観光ガイドの若者のジジの二人だった。ベツポおじさんはなんでもじっくりやる変わり者であり、ジジは口からさきに生まれたような冗談好きの陽気な若者であったが、それでいて二人は仲よしだった。

ところがここに、人々の平和で幸福な生活を **B** かす者たちがあらわれた。時間どろぼうの灰色の男たちである。彼らは音もなく人目につかず攻めこんできたのだった。頭のとっぺんから足の先まで、そして顔もカバンもなにもかも灰色づくめなのである。彼らは人々の暮らしのなかにしのびこんできて、時間というかけがえのない財産を人間から奪いつくそうとした。もともと **C** のようなこの男たちは、ちょうど吸血鬼が人々の血を吸って生きているように、人間から奪った時間を **D** にして生きていたのであった。

彼らは人々を **a** カン言で釣って時間を節約させ貯 **b** チクさせるといふかたちで時間を奪うのである。彼らの畏にかかった床屋のフージーはすべてを能率的、事務的に手早く片づけるようになった。しかし、それとともに彼はだんだん怒りっぽく落着きの

ない人間になってきた。彼の節約した時間は彼の手に少しも残らず、一日一日は次<sup>c</sup>ダイに短くなっていったからである。

同じことは町の多くの人々に起こっていた。〔時間節約〕が人々の間で合言葉になり、時間のかからない文明の<sup>d</sup>刈器が謳歌された。人々は余<sup>e</sup>カ<sup>1</sup>の時間でも無駄なく使おうとし、やたらにせわしなく遊ぶのであった。だから、祭りを楽しむことも夢を見ることもできなくなった。また、そのことを思い出させる静けさに耐えられず、いたずらに騒音を立てるのであった。そして問題は仕事への愛情があるかないかではなく、できるだけ短時間にどれだけ多くの仕事ができるかになった。町の外見も変わってきた。古い変化に富んだ家々がとりこわされて余分なもの的一切ついていない新しい家が建った。こうして人々の生活は、日ごとに画一的になり冷たくなり、貧しくなっていたのである。

しかしそれを、誰一人大人は認めようとしなかった。それははっきり感じたのは子供たちだった。灰色の男たちは子供たちが、とくにそのなかでもモモがもつとも手ごわい相手であることを知っていた。そこで彼らはモモの親しい友達である観光ガイドの若者ジジと道路掃除夫のベツポおじさんにねらいをつけた。子供たちから時間をとりあげてモモから引きはなしてモモを孤立させようと試み、また全力をあげてモモを捕えようとした。

こうして、モモの友人たちへの灰色の男たちの魔の手がのびるとともに、モモへの追跡がはじまる。ところがモモは時間の国の主の使者である不思議な亀のカシオペアに導かれて、安全に時間の国に逃げる事ができた。そしてこの時間の国でいっそう時間のすばらしさを見、知ってさらに活力を得たモモと灰色の男たちとのたたかいがはじまる……。

このミヒヤエル・エンデの『モモ』がたいへん興味深いのは、ここに童話のかたちで人間にとって時間とはなにかということが実にいろいろな角度から鋭く立ち入って示されていることである。たとえば、時間が盗まれて人々の日ごとの生活が<sup>E</sup>なり<sup>F</sup>なり<sup>G</sup>なっていったとき、そのことにいちはやく気づいたのはいわば遊ぶことが仕事である子供たちであったが、灰色の男たちの活動とともに子供たちが遊びにならない変な玩具をもってくるようになったことが書かれている。

……子どもたちが、そんなものを使ってもほんとうの遊びはできないような、いろいろなおもちゃを持ってくる事が多くなつたのです。たとえば、

けれども頭のほうはからっぽで、ちっとも働いていないのです。

昔の遊びだったら、二つか五つの木箱とか、やぶれたテーブルかけとか、モグラが盛りあげた山とか、ひとすくいの小石とかがあれば十分で、あとは空想の力で補うことができたのである。しかも子供たちへの灰色の男たちの魔の手がさらにのびて、子供たちは灰色の男たちの手先になった大人たちによって〈子供の家〉に入れられる。そこではなにか自分で遊びを工夫することなど許されない。遊びを決めるのは監督の大人で、しかもその遊びときたら、なにか役に立つことを覚えさせるためのものばかりなのだ。

「で、これからどこに行くの？」

「遊戯の授業さ。遊び方をならうんだ」と、フランコがこたえました。

「それ、なんなの？」

「きょうやるのは、パンチ・カードごっこさ」と、パオロが説明しました。「とつてもためになるんだよ、でもものすごく注意がいるのさ。」

.....

「そんなことがおもしろいの？」とモモは、<sup>1</sup>いぶかしそうにききました。

「そんなことは問題じゃないのよ」とマリアがおどおどして言いました……

「じゃ、なにがいったい問題なの？」

J

とパオロがこたえました。

すべてのものの価値が役に立つこと能率なこと自動的なことに還元される時、玩具も玩具でなくなり遊びも遊びでなくなる——この私たちのまわりで今日頻繁に見られるようになった事柄が、端的にその原型を示す童話的な考え方や表現によって鮮かに示されている。そして、そのような事態が生ずるようになったのも、時間とは生活であり時間を節約すればするほど人間の生活はやせ細ってなくなってしまうからであった。時間の国の主のマイスター・ホラはモモに時間のことをこんなふうにもいつている。「時計というのはね、人間ひとりひとりの胸の中にあるものを、きわめて不完全ながらもまねて型どったものなのだ。光を見るためには目があり、音を聞くためには耳があるのとおなじに、人間には時間を感じとるために心というものがある」と。

私たち人間一人一人の胸のなかにあり、生活そのものであるような時間は、どこでもいつでも斉一に流れているのではない。物理的には同じ長さである時間が同一の人にとって楽しいとき嬉しいときには短く、辛いとき悲しいときには長く感じられるということから、<sup>2</sup> 物理的な時間とは別にこれと対照的に心理的な時間というものが考えられるようになった。

しかし人間的な時間とは、このように単に心理的なものに尽きるのであろうか。たとえば日曜日や祭日、とくに今日の私たちの社会でいえば正月の三カ日などについてふりかえってみればわかるように、そういうときに流れているのは平日の時間ではない。一般に、循環とリズムを感じさせながらゆっくりと流れる時間がそこにある。もっとこまかく見れば、同じ平日でもビジネス街を流れている時間と団地を流れている時間は同じではないし、放送局のスタジオのなかを流れている時間と動物園のなかを流れている時間は同じではない。前者に流れているのは厳密さを要求される抽象化された時間であり、後者に流れているのはそれよりはだまかで生活的、生命的な時間である。

真の時間とは、単に心のなかにある心理的なものではなくて、質をもった空間のなかで人々が共有するものではないか。時間は、物理的時間でも心理的時間でもあるまえに、質をもった空間のなかで人々によって共有されるものではないか。あるいは、そこでの時間の流れ方、循環とリズムのあり方によってそれぞれの空間が質的空間となるのではなからうか。より抽象化された空間をも含んだことではあるが。

それはつまり、私たちの生活が本来、自然の循環とリズムを社会的、文化的に分節化し多様化した空間のなかで営まれているのだということである。それらの空間は重層化され多義性をもった質的空間であり、その多義性は、私たちの生活の多義性であり、豊かさである。

(中村雄二郎『考える愉しみ』より)

問一 空欄 A 〓 D には漢字一字が入る。最も適当なものをそれぞれ一つずつ選び、記号をマークしなさい。解答番号

は A 〓 1 ・ B 〓 2 ・ C 〓 3 ・ D 〓 4 。

- ① 脅 ② 糧 ③ 湧 ④ 影

問二 傍線部 a 〓 e のカタカナと同じ漢字を使うカタカナを、各群の ① 〓 ④ の中からそれぞれ一つずつ選び、記号をマークしな

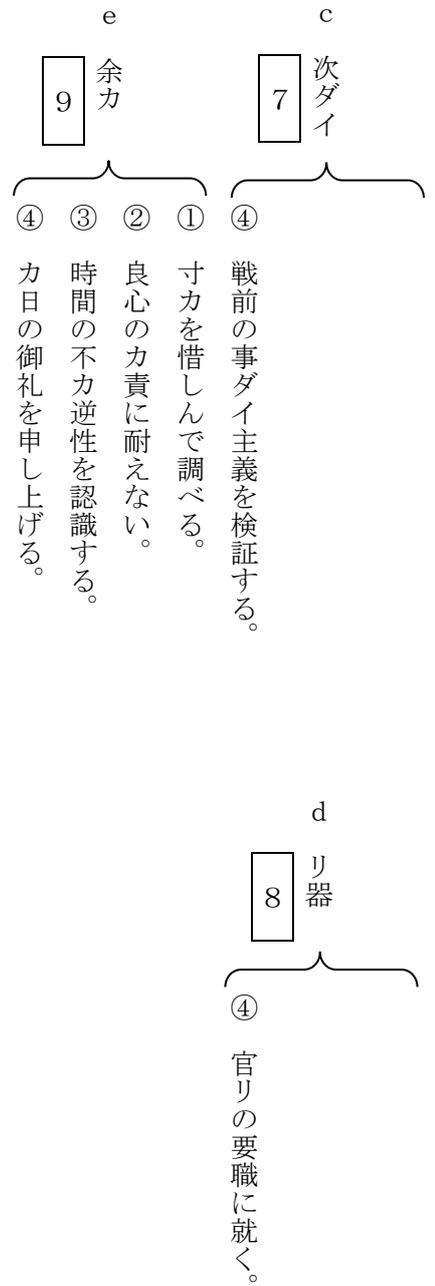
さい。解答番号は a 〓 5 ・ b 〓 6 ・ c 〓 7 ・ d 〓 8 ・ e 〓 9 。



- ① 中止のダイ替案を示す。  
② 演ダイに立って説く。  
③ 及ダイ点を突破できた。



- ① リ不尽な言動に反論する。  
② リ己的な行動を戒める。  
③ 現実との乖りを指摘する。



問三 空欄 E・F・G に入らない語を一つ選び、記号をマークしなさい。解答番号は 10。

- ① 貧しく ② 画的に ③ 冷たく ④ 無意味に

問四 空欄 I には「いろいろなおもちゃ」の例が三つ出てくる。例として不適切なものを一つ選び、記号をマークしなさい。

解答番号は 11。

- ① ガタガタ、ギューギー、ブンブンとせわしなく動きまわるおもちゃ  
 ② どこにでも絵が描けて、すぐに消せる絵の具  
 ③ リモコンで走らせることのできる戦車  
 ④ 細長い棒の先でぐるぐるの円をかくて飛ぶ宇宙ロケット

問五 傍線部1「いぶかしそうに」の意味に最も近いものを一つ選び、記号をマークしなさい。解答番号は 12。

- ① 驚異                      ② 皮肉                      ③ 真剣                      ④ 懐疑

問六

空欄 J に入る最もふさわしい言葉を一つ選び、記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ① 「将来の役に立つってことさ」  
② 「成績が上がるっていうことさ」  
③ 「すばやくできるようになるってことさ」  
④ 「みんなも同じことをやるってことさ」

問七

傍線部 2 「物理的な時間」の意味に最も近いものを一つ選び、記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ① 真の時間  
② 時計が示す時間  
③ 自然の循環をもとにした時間  
④ 生活そのものであるような時間

問八

本文で述べられているミヒヤエル・エンデの「モモ」の内容に合致しないものを一つ選び、記号をマークしなさい。

解答番号は 。

- ① 人間にとって、時間とは何かを、いろいろな角度からテーマにしている。  
② 町の人々は、モモに話を聞いてもらおうと、自分の考えがはっきりして、勇気がわいてくる。  
③ モモには、他の子どもにはない不思議な超能力のようなものが備わっていた。

④ 灰色の男たちは、モモの友だちにねらいをつけて、生き方を変えさせてしまった。

**問九**

本文の主旨として最もふさわしいものを選び、記号をマークしなさい。解答番号は 

16
----

。

① 楽しい時間は短く、辛く悲しいときは長く感じられるのが心理的な時間であり、真の時間とは、このような多義性をもつて、私たちの生活を豊かにしている。

② 人の生活は、自然のリズムの中で、社会や文化を営んでいるので、その中で流れている時間は、本来豊かであるはずだ。

③ 物理的時間は、人々の生活を能率重視に変えてしまっているので、そこから心理的時間が奪われてしまい、人々の生活を抽象化している。

④ 日曜と平日は、時間の流れが違うように、ビジネス街、団地、放送局、動物園にも抽象化された時間と生命的な時間が重層化して流れており、生活は多義的である。

問題二 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

私は自分で利用出来る材料を全部動員して、人間の言語を考える。そうするといろいろな面白いことが分かってくる。たとえばその一つは、多くの人が人間の言語というのは文字が発明されたことによって、<sup>a</sup>カク段に便利になったという。音というのはすぐ消えちゃって証 <sup>b</sup>ゴが残らない、遠くにいる人に聞こえない。まして過去の文化遺産として伝わらないと。だから音が消えるというのは、普通の言語学者及び <sup>1</sup>素人は言語の持っているマイナスだと思っていない。だけど僕は逆に、<sup>2</sup>言語は音であつて消えるからいいんだということに気が付いたんです。

それはほかの動物の記号と比較してみるとわかる。すぐ消えない記号というのはたくさんあります。例えば、シカとか犬のように、においを出す動物は、におい物質というのを一 <sup>c</sup>ペン出すと、それは風でも吹いてこない限りそこに漂っている。だから次のことを伝えようと思う場合には場所を移動しないとイケない構造になっている。

ところが人間の言語というのは消えるからこそ、つまり今しゃべったことはもうないから、同じところにおいて、次々に積み重ねられるんです。音が消えなかったら、我々は走るか、駆け回ってしゃべらなければならないし、聞く方も走りまわって付いてこないとだめだということに気が付いた。今出した記号が消えるからいいんです。人間の言語がすごく有利なんです。

それから色が変わるといふ記号もある。色というのは、変わった色の上にはほかの色を出すためには生理反応を変えなきゃいけない。ですから、音というものに関して、<sup>3</sup>人間が記号活動として音声を使うということの利点は何だろうということ  
を私は考えた。

第一に、まず人間の音声というのは <sup>4</sup>廃物利用です。ほかの動物の記号というのは廃物利用じゃなくて、記号を出そうと思つて動作がある。尾羽広げるといふのは廃物利用じゃない。エネルギーが要るからいつまでもやっていれば疲れる。ところが人間といふのは息を吐くでしょう。その排気ガスだけを使っている。鳥は吸気と呼気を両方使うから長く鳴ける。人間は歌手が息継ぎしなきゃいけないといふのは、息を吸うときは声を原則として出せないからです。有名なブッシュマンの <sup>註</sup>クリックといふのがありますけれども、しかし原則として人間は呼気を使う。呼気といふのは排気ガスですね。

二番目に、口とか喉が <sup>のど</sup>共鳴箱になつて、音源の振動といふのは声帯のところにおいては、実にわずかなエネルギーのちっちゃ

なかさかさした音です。ちょうど蓄音機で針のところから出る音というのは小さいけれども、それは増幅される。人間は言語という記号を、二時間も三時間もしゃべってもあまり疲れないのは、廢物利用であることのみならず、小さなエネルギーで言語をソウ作して、たまたま共鳴箱があるために増幅されている。しかもその共鳴箱の大きさと形が任意に変えられるという点で楽器でいえばアコーディオン型なんです。バイオリンとかピアノというのは共鳴箱が一定している。ところが人間は口を開くか閉じるか、<sup>e</sup>ビ音にするかしないかというふう<sup>d</sup>に共鳴箱が幾つにも変形するから、非常に得なんだということです。

第三に、色や、動作を使う信号というのは夜だったら見えないうし、遮蔽物があれば見えません。けれども、音というのは、ある程度の距離までは届くし、遮蔽物があってもいいし、夜でもいい。

第四は鳥の仲間は大きく分けて音声を多用するものと殆ど利用しないグループに分けられる。多用するのは森林性の鳥、やぶに住む鳥です。海鳥や見通しの良い草原の鳥は声にたよらない。お互いが見えるからです。そこで人間の祖先のある時期は森林に住んでいた猿だと推測できる。この点は、あとでもふれます。

こう考えてみると、人間の祖先の猿が、ほかのチンパンジーとかゴリラを抜いて急に<sup>註</sup>ホミニゼーションの道をつ走り出したのは、たまたま音声というものに信号を託すような環境と偶然にあったからじゃないか。音声を使わなかったら、<sup>5</sup>シグナルの構造上の制約ということから逆に知能も発達しなかっただろう。音声を選んだことによって、構造的な展開が出来る。

もう一つ最後に、音声のいいところは、音声記号というのは、それを出した人と聞く人にとって、ほとんど客観的な同一性を持つということです。

例えば、おいを出した方は、それをかく方とは違う。手を振っているのを見ている人と、振っている人では違う。現に振っているうちに疲れてくる。見る方は一年見ていたって疲れないですね。ですから、いろいろなほかのチャネルの記号は、出す方と受ける方にとって違う、それがどちらとも同じものになるというのは、音声が一番です。

もちろん自分の声を聞くのと、人の声を聞くのとでは **A** 伝導が抜けるから多少は違うけれども、ほぼ同じものとして聞きます。しかも、私の顔が赤いという記号は、私にとっては客体ではなく、見る人にとっては客体ですが、音声の場合は私にとっても私の外側にある客体になる。ですから、<sup>6</sup>記号として非常にニュートラルになる。

というようなことで、音声というものがほかのタイプの記号とくらべていかによかったか、動物と比較したことによって新しいことがずいぶん分かった。

(鈴木孝夫『私の言語学』より)

註 クリック：擬声語

ホミニゼーション：ヒト化

問一 傍線部 a～e のカタカナと同じ漢字を使うカタカナを、各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、記号をマークしな

さい。解答番号は a || 17 ・ b || 18 ・ c || 19 ・ d || 20 ・ e || 21。

a カク段

17

④ 彼の強さは別カクだ。

③ 間カクをあけて並ぶ。

② 的カクな指示を出す。

① 問題のカク心に触れる。

b 証コ

18

④ キョ視的な視野をもつ。

③ 救援のキョ点を作る。

② 小説はキョ構の一つだ。

① 枚キョにいとまがない。

c 一ヘン

19

④ 独断はヘン見に通じる。

③ 時代はヘン遷する。

② 大物のヘン鱗を見せる。

① 言語活動は普ヘンのに見られる。

d ソウ作

20

④ 古い写真に世ソウが残っている。

③ 漁船のソウ業を開始する。

② 事態が錯ソウしてきた。

① 行方不明をソウ索する。



**問四**

傍線部3「人間が記号活動として音声を使うということの利点」に相対しないものを一つ選び、記号をマークしなさい。解答番号は 24。

- ① 呼気という排気ガスを利用している点
- ② ちようど蓄音機の針のところから出る、小さい音に相当する点
- ③ 視覚情報のように遮蔽物で遮られない点
- ④ 森林に住んでいたことと、知能の発達とが偶然重なった点

**問五**

傍線部4「廃物利用」の具体的な説明に合うものを一つ選び、記号をマークしなさい。解答番号は 25。

- ① エネルギーを節約すること
- ② 息を吸うこと
- ③ 呼気を使うこと
- ④ 感情を吐露すること

**問六**

傍線部5「シグナルの構造上の制約」を説明しているものとして最もふさわしいものを一つ選び、記号をマークしなさい。解答番号は 26。

- ① 他の個体に記号でメッセージを送るとき、多様な展開ができないこと
- ② コミュニケーションの方法の中で、エネルギーの消費を最小限に抑えること
- ③ メッセージを送る場合、視覚情報に限定すると遮蔽物にさえぎられる場合があること
- ④ 身体的なシグナルの場合、行為者と受け手の間に客観的な同一性がもてないこと

問七 空欄 A に入る最も適切な語を一つ選び、記号をマークしなさい。解答番号は 27。

- ① 神経
- ② 筋肉
- ③ 鼓膜
- ④ 骨

問八 傍線部 6 「記号として非常にニュートラルになる」と同じ意味合いの表現を一つ選び、記号をマークしなさい。

解答番号は 28。

- ① 音声記号
- ② 客観的な同一性
- ③ 構造的な展開
- ④ 私の外側にある客体

問九 本文の内容に合致しないものを一つ選び、記号をマークしなさい。解答番号は 29。

- ① 人間の言語活動の利点は、呼吸を有効に利用しながら、小さなエネルギーで音声を増幅した点にある。
- ② 人間の言語は、文字が発明されて便利になったこと以上に、音声を使えるようになったことに特性がある。
- ③ 他の動物にもメッセージがあり、それは五感の多岐にわたった記号で表現している。
- ④ 人間の祖先のある時期、森林に住んでいた猿は、チンパンジーやゴリラにはない語法を獲得した。

《以下余白》